

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立今宮高等学校
取り組む課題	D 生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共生推進教室卒業生アンケートにおける「共生推進教室設置校で学んだこと」の肯定感の上昇 ・ 共生推進教室の生徒と総合学科生徒が集う「仲間の会」の発足及び具体的な活動実績の伸長 ・ 学校教育自己診断（生徒・保護者・教職員）における該当項目の肯定率の向上 ・ 教職を志す生徒数の増加
計画名	「風を起こす」—すべての人を大切に、真に共生社会をリードする人材育成校の実現と発信 ～ともに学び、ともに育つインクルーシブ・ルームとリラックス・ルームの設置～

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画 の中期的目標	<p>4. 多様性を尊重し、「人・社会・世界」と繋がり共生社会をリードする力の育成</p> <p>(1) 共生推進教室を中心に仲間づくりを進め、「ともに学びともに育つ」インクルーシブ教育を推進する。</p> <p>(2) さまざまな人権問題に取り組み、自他の尊厳や多様性を尊重し、互いの違いを認め合い共に生きる教育を推進する。</p> <p>5. V(変動性)U(不確実性)C(複雑性)A(曖昧性)の時代を乗り越える教職員集団「チーム今宮」の形成</p> <p>(1) めざす学校像や育てたい生徒像の実現に向けて、すべての教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場づくりを進める。</p> <p>イ すべての生徒の安全・安心を確保し、様々な危機管理体制を整備するとともに、SCやSSWを活用する等、生徒との対話を重視した体制をつくる。</p>
事業目標	<p>(1) 共生推進教室を中心に据えたインクルーシブ教育の実践</p> <p style="padding-left: 20px;">共生推進教室教育の充実を図り、共生推進教室生徒の成長を促すとともに、クラスや授業を超えて、「ともに学び、ともに育つ」をコンセプトに学習活動や部活動、学校行事、共生行事等において、総合学科の生徒とのインクルーシブ教育を実践する。</p> <p>(2) 多様な生徒に対する居場所づくり</p> <p style="padding-left: 20px;">共生推進教室の生徒をはじめ、学校や社会に適応するのが難しい生徒や気持ちのコントロールが難しい生徒など、さまざまな特性をもつ生徒の落ち着く場所として居場所を作り、自己のペースで、社会で生きる力をつけるプログラムを実践する。</p> <p>(3) 全国に向けた取組みの発信</p> <p style="padding-left: 20px;">創立118年の伝統校×総合学科×共生推進教室設置校という日本唯一の環境を強みにして、共生社会をリードする人材を育成する教育の成果を全国に発信し、本事業がモデルケースとして他校へ伝播することをもって目標を達成したものとす。</p>
取組みの概要	<p style="background-color: #e1eef6; padding: 5px;">整備する 設備・物 品</p> <p>(1) インクルーシブ・ルームの設置</p> <p style="padding-left: 20px;">教室の仕切り壁の撤去及び可動式パネル間仕切りの設置、教室タイルカーペット設置、靴用ロッカー、マルチワークテーブル、折り畳み回転チェア、木製ラック、ノートパソコン、タブレット端末</p> <p>(2) リラックス・ルームの設置</p> <p style="padding-left: 20px;">相談室壁面の板張り及び床のクッションフロア設置、ティア型可動テーブル、ワークチ</p>

		<p>エア、ラウンジチェア、BOX 収納棚、パーテーションパネル、ソファベッド、テーブル、書籍（絵本など）、観葉植物</p>
取組内容	前年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共生推進教室生徒が主体となって、総合学科生徒との親睦を深め、信頼し合える関係をつくる機会となる以下のイベントを実施した。 （１）七夕飾り〈7月〉のべ 265 名参加 （２）オープンクッキー店〈11月〉164 名参加 （３）スタンドグラス制作（共生推進教室の生徒が講師として活躍）〈12月〉20 名参加 （４）ポッチャ体験会〈1月〉40 名参加 ・ 体育祭や文化祭、遠足や修学旅行等の学校行事において、クラスの一員としてともに活動。 ・ 教育相談及び教育支援体制を整備し、SC 及び SSW をそれぞれ年 12 回従事するなど、すべての生徒のセーフティネットワークを充実した。
	初年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校で、先進的に支援教育、教育相談に取り組んでいる学校を視察する。 ・ 「インクルーシブ・ルーム」「リラックス・ルーム」を創設する。 ・ 「インクルーシブ・ルーム」「リラックス・ルーム」の活用や、支援教育、教育相談の教職員研修を実施し、本校全体でめざす授業について教職員が共有する。 ・ 「インクルーシブ・ルーム」を活用した模擬授業を実践する。 ・ 「インクルーシブ・ルーム」「リラックス・ルーム」を活用した、生徒の居場所づくり、交流の場となるイベントを企画する。 ・ 本校のインクルーシブ教育、支援教育、教育相談の取組みのビラや HP を作成する。
	2 年 め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先進的に高等学校で支援教育、教育相談に取り組んでいる学校を視察する。 ・ 「インクルーシブ・ルーム」を活用して、アクティブ・ラーニングや視覚支援、共同学習などの授業を実践する。 ・ 「インクルーシブ・ルーム」「リラックス・ルーム」を活用して、教職員の支援教育、教育相談の教職員研修（基礎編）を行い、専門性向上を行う。 ・ 「インクルーシブ・ルーム」を利用して、「仲間の会」を中心とした総合学科と共生推進教室の生徒との交流イベントを開催する。 ・ 本校のインクルーシブ教育、支援教育、教育相談の取組みのビラを教員養成系の大学や大阪府（教育庁）に配付する。
	3 年 め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「インクルーシブ・ルーム」を活用して、アクティブ・ラーニングや視覚支援、共同学習などの授業の公開授業を開催する。 ・ 「インクルーシブ・ルーム」「リラックス・ルーム」を活用して、教職員の支援教育、教育相談の教職員研修（応用編）を行い、専門性向上を行う。 ・ 「インクルーシブ・ルーム」を利用して、「仲間の会」を中心とした総合学科と共生推進教室の生徒との交流だけでなく、PTA、地域、同窓会も交えたイベントを開催する。 ・ 本校のインクルーシブ教育、支援教育、教育相談の取組みについて教員養成系の大学のゲスト講義（講演会）やフォーラムでの実践報告を実施する。
	取組みの 主担・実 施者	<p>「経営企画会議」（校長・教頭・首席）の所管のもと、次の分担にて遂行する。</p> <p>【インクルーシブ・ルーム】共生推進教室室長を主担者として、「インクルーシブ委員会」「共生推進教室担当者会議」で企画・運営し、全教職員が参画・実施する。</p> <p>【リラックス・ルーム】教育相談委員長、教育支援委員長、保健主事の三者を主担とし、それぞれ「教育相談会議」「教育支援委員会」「保健部会」で企画・運営し、全教職員が参画・実施する。</p>

成果の検証方法と評価指標	初年度	<ul style="list-style-type: none"> ①共生推進教室卒業生アンケートにおける「共生推進教室設置校で学んだこと」の肯定感（10段階の満足度）8.0以上（R4:7.5 R5:該当なし） ②共生推進教室の生徒と総合学科の生徒が集う「仲間の会」の発足。会員15人以上。 ③共生推進教室の生徒主催のイベントを年6回行う。（R4:年2回、R5:年4回） ④学校教育自己診断（生徒）での「障がいのある人たちと『ともに学び、ともに育つ』大切さを学ぶ機会がある」の肯定率88%（R3:69% R4:85% R5:85%） ⑤学校教育自己診断（生徒）での「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定率68%（R3:59% R4:66% R5:66%） ⑥学校教育自己診断（保護者）での「子どもは心身の健康について気軽に先生に相談できた」の肯定率70%（R3:68% R4:73% R5:68%） ⑦学校教育自己診断（教職員）での「本校がめざす学校像を実現するため同僚性を高め協力して教育活動を行う」の肯定率85%（R3:59% R4:65% R5:84%）
	2年め	<ul style="list-style-type: none"> ①共生推進教室卒業生アンケートにおける「共生推進教室設置校で学んだこと」の肯定感（10段階の満足度）8.5以上 ②主体を共生推進教室の生徒から「仲間の会」に拡充し、主催するイベントを年6回以上行う。会員20名以上。イベント参加延べ人数を前年度の1.2倍以上。 ③学校教育自己診断（生徒）での「障がいのある人たちと『ともに学び、ともに育つ』大切さを学ぶ機会がある」の肯定率90% ④学校教育自己診断（生徒）での「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定率70% ⑤学校教育自己診断（保護者）での「子どもは心身の健康について気軽に先生に相談できた」の肯定率73% ⑥学校教育自己診断（教職員）での「本校がめざす学校像を実現するため同僚性を高め協力して教育活動を行う」の肯定率88%
	3年め	<ul style="list-style-type: none"> ①共生推進教室卒業生アンケートにおける「共生推進教室設置校で学んだこと」の肯定感（10段階の満足度）8.7以上 ②「仲間の会」の定例会を毎月開催し、ルームを活用した懇親会等のほか、主催するイベントを年6回以上行う。会員25名以上。イベント参加延べ人数を前年度の1.1倍以上。 ③学校教育自己診断（生徒）での「障がいのある人たちと『ともに学び、ともに育つ』大切さを学ぶ機会がある」の肯定率92%以上 ④学校教育自己診断（共生推進教室診断（生徒）での「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定率75%以上 ⑤学校教育自己診断（共生推進教室診断（保護者）での「子どもは心身の健康について気軽に先生に相談できた」の肯定率77%以上 ⑥学校教育自己診断（教職員）での「本校がめざす学校像を実現するため同僚性を高め協力して教育活動を行う」の肯定率90%以上 ⑦教職を志す生徒数（教員養成課程等の大学進学者数）8名以上（R5:3名） ⑧本事業の成果報告会の実施